

■研究調査レビュー

奄美調査日誌

篠原 隆弘 (鹿児島大学法文学部)

竹村 剛 (鹿児島大学大学院人文社会科学研究所)

地域社会の末端現場で生じているさまざまな生活問題に、地方自治体をはじめとする行政だけで対応するのはむづかしく、地域社会で活動する諸種の地域性集団間の協力および/あるいはそれら地域性集団と行政との協働によって対応せざるを得ないのが今日の全般的な実情である。

こうしたなかで筆者たちは、活動の日常的な継続性や恒常性を特徴とする従来型地域集団である町内会や自治会等と、各種の生活上の問題やテーマにアド・ホックに機動的に対処するのを特徴とする今日型地域性集団であるボランティア・サークルやNPO集団等の両タイプの集団を、主として地域社会の末端現場におけるそれらの「環境共生活動」に注目して取り上げ、同活動の実証分析を通して、21世紀の日本および世界の最大の課題の1つである「循環型社会」づくりの具体的で確かな手がかりを得ることを狙いとしている。

こうした狙いのもとに筆者たちは、2001-03年度間の屋久島調査に引きつづき、2003年度以降名瀬市内でフィールドワークをつづけている。下記の日誌は、筆者たちの3回の奄美調査の粗記録である。目下筆者たちは、それらの粗記録を調査研究の狙いのふるいにかけて、諸事実と事実関係の確定を重ね、最終的なプレゼンテーションに向けた段階的な精緻化を目指している。

付記

- ① 屋久島調査の成果については、篠原・竹村ほか「住民の環境共生活動の形成と循環型社会の構築」鈴木基之代表『循環型社会の屋久島モデルの構築(第3の1分冊):屋久島の環境と経済』科学技術振興調整費報告書, 2004年, 265-382頁

等を参照されたい。

- ② 奄美調査の狙いや中間的成果としては、篠原「特集:研究プロジェクト・研究グループ紹介-島嶼コミュニティと環境ガバナンス-」『奄美ニューズレター』No.1, 2003年12月, 5-6頁や、篠原・竹村「離島社会における環境共生活動の展開-名瀬市の2つの地域性集団の場合-」鹿児島大学経済学会『経済学論集』第63号, 2005年, 49-64頁等がある。
- ③ ヒアリング対象者の肩書等はヒアリング時点のもの。
- ④ 3回のフィールドワークで、関係者から多数の文書資料等を収集することができたので、それらの収集諸資料を明記して、他の研究者仲間の便にも供すべきであるが、今回はその作業にまで至っていない。

日誌1 (2004/3/18-3/21)

◇ 3/18(木) 13:30- 於大島支庁 対象者:同支庁職員(複数)

- ・知的障害者支援のためのNPO法人「ユアアイ自立支援の会」がゴミの減量活動をしている(活動の詳細については名瀬市福祉政策課のM氏から聞き取ること)。
- ・自然保護団体もあるが、循環型社会づくりでは沖永良部島の農業生産団体で意識が進んでいて、新しい動きがある。
- ・これらの関連団体もいまは行政にもの申す段階で、自らの活動に行き着いてはいないと思う。
- ・当地の環境問題をめぐり、加害と被害の対立構造はなく、加害=被害である。

- ・当地は多様性が大きいですが、一応[手つかずの未開地-中間の世界-人為の生活地]に区分でき、2003-05年度にこの未開地を中心に重要生態系調査が実施されている。
 - ・マングースが在来種を食べて、駆逐している。
 - ・奄美が中央から遠いことを有利にとらえて、地域づくりを進めたい。ただ、岩崎産業が住用村など、本島の中心部を廣大に所有していることが地域づくりと深くかかわる。
 - ・奄美パークができて、当地への客層が変わった。つまり、サーフィンなどの若者から民俗、文化や自然に関心を寄せる上層客へ、である。
 - ・また奄美パークは、地元住民に地元のよさや価値を自覚させることにも貢献している。
 - ・奄美で生活できる農業が営まれているのが沖永良部島、喜界島、徳之島(ジャガイモ)だ。
 - ・そこに住んでいる人の福祉をまず考えるべきで、産業振興や特産物づくりなどは時代遅れだ。県は保健所を中心に長寿子宝プロジェクトを進めている。
 - ・奄美で最大のゴミ問題は海からの漂着物で、それが海岸を汚している。
 - ・廃家電を処理するのに、離島のため単価で2,000-3,000円高いコストがかかっている。
 - ・話題に出た人物:MK氏(瀬戸内町歴史民俗資料館職員)、MY氏(奄美パーク学芸員)
- ◇ 同日 上記終了後 於名瀬市企画調整課
対象者:同課職員
- ・町内会・自治会やボランティア団体を担当する窓口は教育委員会の生涯学習課、NPO団体の担当は当課。NPO団体については、県のホームページを見ること。
 - ・いま市民活動支援課を作ればと話しているところだ。
- ◇ 3/19(金)9:30- 於同市環境対策課
対象者:同課職員(複数)
1. 環境行政
- ・当市は、毎月第三日曜日を市民の清掃日にして、清掃している。
 - ・市は、2003年度まではゴミ減少推進員という個人に補助金を出していたが、いまは町内会・自治会に出している。
 - ・2005年1月1日から自動車リサイクル法が施行されるが、それにあわせて、島内でリサイクルが成り立つシステムを構築していきたい。
 - ・いま段ボールだけは市で回収しているが、新聞紙や雑誌などまでに手をひろげたい。
 - ・月に100トンのゴミを業者(2社)に持ち込んでいる(詳細は『市勢要覧』を参照。なお、同『要覧』は3年に1回作成)。
 - ・テレビや洗濯機などの不法投棄が山間部に多いが、冷蔵庫の投棄はそれほど多くない。1998年(平成10)4月から1人(=委託職員)体制で監視パトロールを始めたが、2003年度からは2人(同上)体制にした。
 - ・不法投棄への目下の対策は啓発と警告と告発、それに地域の町内会・自治会等での監視だ。
 - ・古紙、それに家電や自動車までをリサイクルできる施設を立ち上げたい。
 - ・これが家電リサイクル構想で、島内処理を目指している。つまり、[引き取り業-解体業-破碎業]のうち、解体業までを島内で育成したいと考えている。
 - ・島内ゼロ・エミ運動で大切なのは、ゴミはできるだけ減量すること、焼却できるものはできるだけ焼却すること、船賃コストを下げることなどだ。
 - ・2003年11月、県主催の鹿児島環境フェアが開催され、そのさい子供環境フェアも開かれた。
 - ・環境保全の副読本を学校用(小学4年生以

上を対象としている)と市民向けに作成した。この事業を実施したのは本県では当市と指宿市の2市だけ。

2. 地域社会

- ・自治会の活動は郊外地区では活発だが、市街地の組織率は5割くらいか。
- ・合併前の旧上方、下方、古見方の3村が郊外地区。

◇ 同日 10:50- 於まちづくり推進課 対象者：同課職員

まちづくりの方向性

- ・1996-2002年度間に企画調整課内にあった都市整備推進室が2003年度にまちづくり推進課に改組・新設されたが、2004年4月1日から都市整備課に改名することになっている。国、県、市の事業をこえて、まちづくりを推進するために設置されたのが当課だ。PFI(民間による公共事業施行)方式の採用も考慮している。
- ・当課の大きい仕事は次の二つ。
一つは、市街地の整備において国と県と市の事業を調整・一体化すること。もう一つは、行政の縦割りをこえて、マスタープランを作り、みなとづくり・まちづくり・道づくりを進めること。
- ・成熟の時代にあわせたまちづくりをしたい。つまり、これまでのようなまちの拡大を止めて、まちの中心になる目や顔を作っていきたい。港町の名瀬に戻る、もとの「島だて」を重視したい。
- ・環境保護団体等と話しあいながら、都市計画づくりを進めている。

◇ 同日 13:30- 於奄美自治会館2階 対象者：奄美群島広域事務組合・奄美群島観光連盟事務局職員

- ・目下の主な仕事は、奄美を世界自然遺産に登録するための準備を進めることだ。

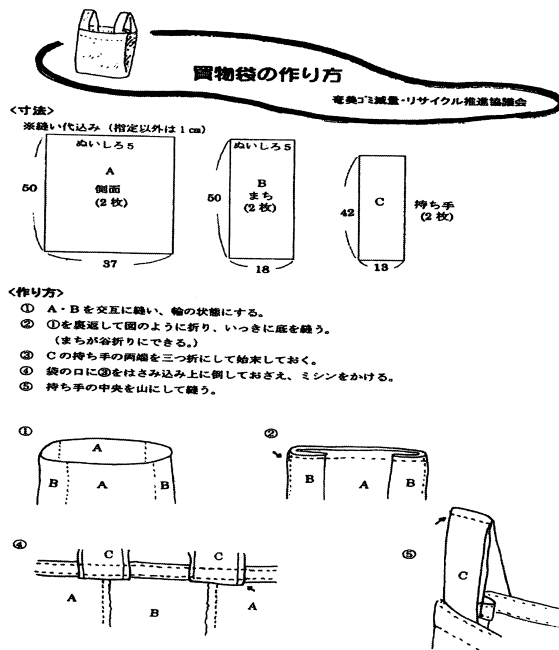
◇ 同日 15:30- K T氏宅：同氏は奄美ゴミ減量・リサイクル推進協議会事務局長

1. 同協議会の組織と活動

- ・会は1994年(平成6)6月に発足した。その半年前に地元紙・南海日々新聞のT記者が廃油石鹸を作っているグループを紙面に紹介したことなどがきっかけとなって、結成。
 - ・MT氏(市の女性政策室職員などを歴任、故人)が自治会や婦人会などをまきこめとアドバイスしてくれたので、会はそのように組織化した。
 - ・中央公民館の会議室で年1回総会を開いてきた。
 - ・名瀬市環境フェア(2004/3/20-3/25)では、啓発パネルとリサイクル・アイデア品の展示などをする。グリーン購入法のもとで環境に負荷を与えない消費行動の大切さを情宣する。
 - ・子供エコクラブは当会の子組織で、子供たちはこのフェアで水辺ウォッチングとまちウォッチングの成果を発表する。
 - ・エコバック(=買い物袋)のコンテストをした。賞金の代わりにいくつかの商店街通り会の共通商品券を副賞にしたら、2001年6-7月の募集期間に26点の応募があった。費用は商店街からの寄付金だ(調査者の1人がエコバッグの現物1点を頂いた)。
- ## 2. 組織・活動上の問題など
- ・行動できる人ができない。基礎的知識を積み重ねて、勉強するのがいやで、おっくうがる人が多い。
 - ・また、人を集めるのが問題だ。目下、子供を人集めのきっかけにしている。
 - ・まちづくり推進課が当市のまちづくりの行政側の主体だが、目下、議論が紛糾している。

事態が動いて、あきらめムードの市民もいるが、第三者的立場ではなく、アクティブにまちづくりの議論に参加すべきだと思う。

・「南ふる大学」の環境ゼミに参加した生徒の仲間がK T, H, T Y (市環境対策課職員), M (福祉活動家, 女性)の諸氏だ。



エコバックの作り方を地域に配布している

◇ 3/20(土)9:30ー 於名瀬クリーン・センター 対象者:大島地区衛生組合(名瀬クリーン・センター)職員

・ 同氏から簡単な聞き取りと資料収集をし、センター内を案内して頂く。



名瀬クリーン・センター

◇ 同日 11:00ー 於矢之脇町自治会長宅 対象者: S K氏

1. 本人のこと

- ・ 1938年(昭和13)10月22日生まれ, 65歳。名瀬市出身。
- ・ 名瀬郵便局に41年間勤務し, 1999年(平成11)3月に定年退職。
- ・ 子供は3人。長女は1967年生まれで, 本県肝属郡串良町の人と結婚し, 2人の子をもち, 東京に居住。次女は1969年生まれで, 同居しているが, 鹿屋市出身の人とまもなく結婚の予定。長男は1971年生まれ, 熊本大学工学部を卒業, 熊本市水道局に勤務。妻女は1942年(昭和17)8月生まれで, 龍郷町出身。
- ・ 子供の成長, 入学にともない, PTA, 子供会活動や地域活動にかかわっていった。1975年(昭和50)から, 子供会育成会長, 自治会総務部長, 同副会長を経て, 2003年度から会長に就任し, 現在3選されている(任期1年)。

2. 自治会

- ・ 矢之脇町の由来: 平家の落人が射た矢が落ちたのが当地だという伝説がある。
- ・ 当町の自治会館 (=集会所) の建物は自治会所有, 土地は名瀬市所有で, 市から借用。
- ・ 市内に74自治会, 8地区があり, 当地は金久地区。地区レベルにも市レベルにも自治会連合会があり, この自治連は市行政と密接に関係し, それに一定の影響をもっていると思う。
- ・ 2003年が市自治連誕生30周年だった。会長はNT氏 (柳町自治会長, 読売新聞名瀬専売所経営。地区体育祭の9/12, 金久中学校体育館で名刺を交換)。
- ・ 環境保全やゴミ処理は会の主要活動だ。具体的には次の通り。

1) 市民清掃活動: 毎月第3日曜日の7:00ー

8:00の約1時間、町内の道路、溝、公園、空き地でゴミ拾いや雑草の刈り取りなどを実施。7月には青少年ふるさと美化活動をし、12月には年末市民総ぐるみ清掃活動として月例の活動以外に放置自転車の処理もする。2) ヤスデなどの害虫駆除のための薬剤の散布。3) 昨年度からのゴキブリ退治の開始。4) 犬の糞の防除: 150枚のミニ看板を町内に立て防除を訴えたところ、効果は上がっている。5) ネット型のゴミ・ステーションの工夫作製とその町内への配置: 当町内は山ぎわであるため、特にカラスや猫が多く、生ゴミが食い荒らされる被害が深刻だったので、住民たちが工夫に工夫を重ねて、使いやすく、交通の邪魔にならず、しかも堅牢な現在のゴミ・ステーションを案出した。

- ・もう一つの主要活動が防災・防犯だ。火の用心の夜回りは、各戸まわしで1年365日実施している。



開閉式ゴミ収集ネットの利用の様子

日誌2 (2004/9/10-9/13)

- ◇ 9/10(金) 10:00- 於矢之脇町自治会長宅 対象者: SK氏(前出)

1. 自治会

- ・会員名簿はない。
- ・2004/4現在、323世帯648人で、世帯加入率は約7割。男291人、女357人。未加入

者は主としてアパート居住者など。

- ・「若返り会」は、65歳以上が入会資格をもつが、約150人か160人が65歳以上。
- ・およそ幼児50人、小学生50人、中学生20人、高校生20人、20-64歳台が300人。
- ・高齢者単身世帯は約40世帯(比率12.4)、それ以外は家族のいる世帯。
- ・会は4班構成。各班のおよその世帯数は次の通り。1班110、2班80、3班70(会長所属の班)、4班60。
- ・職業は概略次の通り。
会社員23世帯、無職17世帯、公務員6世帯、
紬自営3世帯、建築業2世帯、金融業・商店
経営・バー経営・宗教家各1世帯、不明約20
世帯(うち10世帯は会社勤めと目され、真に
不明は10世帯)。
- ・今年から、市が会に一括して31,000円を補助。昨年までは、散布用ホウ酸代の半額とゴキブリの毒代の全額を補助していた。

2. 地域社会

- ・当町には、大和村出身者が多く、相互に絆が深い。市内で郷友会活動を活発にしている。
- ・大和村出身のS海運の社長が当町内に居住しており、彼を中心に同村出身者が集住しているようだ。

3. 本人のこと

- ・会長の父は浦上町(旧三方村内の集落)の出身。
- ・会長は、1973年(昭和48)からここに居住。その前は市役所近くの末広町に居住していた。

- ◇ 同日 13:40- 於名瀬市環境対策課
対象者: 同課職員(複数)

1. 自治会と循環型社会づくり関係者

- ・矢之脇町自治会の活動は、市内でも突出したタイプだ。TY氏(同課職員)は同自治会

第3班の住民だ。

- ・同自治会のゴミ・ステーションを見学して、仲勝町町内会もそれを作った。
- ・循環型社会づくり関係の団体や個人のリストは作っていないが、いくつかいえば次の通り。：奄美野鳥の会、奄美哺乳類研究会、奄美の自然を考える会、奄美ゴミ減量・リサイクル推進協議会、同会のなかの奄美エコ探偵団(子供中心で、子供エコ・クラブの名瀬市版)や、OT氏(山案内人、自然公園指導員)、OK氏(道の島公社の海洋展示館研究員)など。

2. 環境行政

- ・2004年3月の名瀬市環境フェアは、この環境対策課と市教育委員会学校教育課と民間の諸団体と写真家のHF氏が共催し、国の補助を受けて実施した事業だ。
- ・本課は、地球温暖化防止のための試みとして、いま地域省エネルギー・ビジョン作成事業に取り組んでいる。市役所庁舎やクリーン・センターでは、組織的に待機電気の減少を考えている。
- ・2004年1月から市役所は、古紙を回収し、それを資源として売却している。
- ・何でも役所をお願いする市民の対応は問題だ。こうした市民意識をどう改革するかが大切だ。
- ・TY氏は、本課に2003年4月に着任。

◇ 同日 15:30- 於同企画調整課 対象者：同課職員

都市計画など

- ・まちづくり推進課を中心に、市街地再開発計画はできているが、そのまま進めるかはペンディングだ。
- ・同計画への反対運動があるが、その中心は地権者たちだ。
- ・もう一つはマリントウン・プロジェクトだが、

これは土木部の所管で、末広、港両町など、港湾部の整備計画だ。

- ・名瀬市における従来の宅地化は、風に沿って、風の影響の少ないところで進んできた。
- ・当地は、輸送コストが加算されるため生活は苦しく、付加価値の高い産業や商品がないため、所得が低い。
- ・いまは黒糖焼酎業、それにホテル業が設備投資を進めている。

◇ 9/10(土) 13:00- KT氏宅 対象者：KT氏(前出)

1. 本人のこと

- ・1957年(昭和32)3月1日、同市小宿のこの家で誕生。鹿児島大学法文学部人文学科英文学専攻を卒業し、教員免許をもっている。
- ・神奈川県に出て、そこで結婚し、長女の誕生を機にUターン。
- ・この家の管理者で、両親は市内で別に弟と一緒に居住。
- ・いまは昼間NPO青少年支援センターに勤務し、夜はこの家で学習塾を開いている。

2. 活動

- ・この3月の名瀬市環境フェアに私たちが参加した翌日の22日(月)は、鹿児島大学の先生の講演と、それをめぐる意見交換会があった。参加者は20-30人。
- ・子供エコ・クラブの活動は同日の午前中にし、すんだら、子供たちは帰した。
- ・子供環境フェアは2年に1回開催している。その行事の一つであるエコ・クラブの子供たちのキャンプにはマイコップやマイ皿を持参させ、環境教育をしている。
- ・また、親子でリサイクルわらじも作り、一足100円で20足売れた。
- ・協議会の事業でIH氏を講演に呼んだ(私たちの調査時の地元紙・大島新聞に掲載)。講演者への謝金、交通費、宿泊費はすべて

県費もちだ。

- ・古紙全般を扱う会社「リベラル」(MY氏が代表)が本協議会に参加した。
- ・本協議会は、自治会・町内会によるペットボトル、段ボール、新聞紙、古紙の自主回収の動きとタイアップすることができるので、小宿町町内会の次回会合でこのことを提案したい。
- ・本協議会の一部にエコ商品を買って、それを販売する計画もある。
- ・本協議会の活動の当面の主点は、本協議会への個人参加を勧誘・促進することにある。会員数減だから。
- ・当地のまちづくりの目下の話題は、一つは市町村合併の件、もう一つは国道58号線の渋滞緩和のための拝山下のトンネル掘削の件だ。



名瀬市環境フェアの様子

◇ 同日 16:30- 於TY氏事務所:同氏はNPO法人「ユアアイ自立支援の会」理事長

1. 本人のこと

- ・1954年(昭和29)4月5日生まれ。淑徳大学社会福祉学科卒。
- ・千葉県市川市役所、名瀬市金久児童館(6年間)を経て、知的障害者入所更生施設「愛の浜園」に16年間勤務。
- ・同施設をやめて、1999年(平成11)12月か

らこの法人活動の前身を任意団体として開始したので、この12月で6年目に入る。より社会的認知を得るために、2001年(平成13)6月にNPO法人化した。

- ・活動を続けていくことの難しさをいま痛感しているが、いろいろな人に会えたこと、いろいろなことを勉強できたことが財産だと思っている。
- ・リサイクルの仕事は静脈産業や隙間産業といわれるが、将来性はあると思う。

2. 活動

- ・この事務所兼施設は名瀬市立幼稚園の跡地だ。
- ・更生施設勤務中、障害者にふさわしい仕事がない、また、施設内でもものをつくっても、施設外にそれを出す先の受け皿がないことに気づいた。つまり、だれのための施設かを痛感した。
- ・リサイクルの仕事(例えば、資源ゴミの分別、空きビンの洗浄、牛乳パックの再生など)は、障害者でもやれると気づいた。
- ・2000年4月から、瀬戸内町以外の奄美の全自治体で資源ゴミの分別収集が開始されたので、分別の仕事が名瀬市でとれ、さらに、徳之島や沖永良部でも仕事をとるための準備を進めた。
- ・牛乳パックは1999年までは全部燃やしたが、いまはその再生事業を行い、自分の名刺もその再生紙で作っている。この事業を行うなかで、全国ユニパック連とつながった。
- ・いま、採算上からこのパック・リサイクル事業を止めようかと話しているが、全国的にこの活動を認知してもらっただけに、止めることには忸怩たる思いだ。これまで島民にたいへん協力してもらってきたが、後を引き受ける人がいない。
- ・みんなができる仕事づくりが私たちの狙いで、焼酎メーカーで空きビンの洗浄の仕事もしている。

- ・分別収集をはじめて5年くらいたつのに、行政は分別の対象を増やさない。行政に注文するために、リサイクルの品目を決めるときから自分は[関係の委員会]に入っていた。
- ・毎日できる仕事として、養鶏場経営を目指して、市内の小湊にそのための土地を整地した。10,000羽の養鶏とサプリメント「春ウコン黄卵油」の製造を計画して、来2005年4月のオープンを目指している。
- ・循環型社会づくりの啓発や啓蒙はできても、その活動を地域のなかで持続させて、根づかせていくのが難しい。
- ・福祉施設の運営を、市や県をこえて、国や中央と直結した形で自由に進めたい。
- ・福祉観光特区を立ち上げて、障害者が観光で移動しやすい仕組みを作りたいし、またあわせて、障害者の楽な地域間移動問題を考えたい。
- ・環境問題やリサイクル活動は他人事だとの認識がある。実際に活動しようとするルートがない。
- ・市民、市民団体、行政がそれぞれにもう少し真剣に住みよい奄美づくりを考えるべきだ。



名瀬市立幼稚園の跡地を利用している

- ◇ 9/12(日) 13:20ー 於小俣町自治会集会所(西平酒造の建物の一部を集会所として借用): 対象者はKT氏

1. 本人のこと

- ・1939年(昭和14)8月龍郷町で生まれたが、育ちは名瀬市。
- ・自衛隊に34年間勤務し、定年(53歳)で12年前に帰郷。
- ・1993年(平成5)4月から現在まで副会長。役員をする人がいないので。
- ・郷土史に関心をもち、鹿児島大学の先生の講演にも出席したことがある。

2. 自治会のこと

- ・この自治会は、主として防災を目的して1994年に発足。
- ・この町内は生活保護世帯が多い。会への加入率は把握していない。
- ・自治会に協力的な貧しい盲目の障害者や高齢者もいれば、非協力的な豊かな共働き者もいる。
- ・自治会費は年額3,500円。
- ・例年夏休みの第一週目に「火の用心祭り」を実施している。昼はパレード、夜は納涼祭だ。
- ・緊急救助システムをつくって、その対象者である一人暮らしの高齢者などを役員間で見守っている。
- ・次週の日曜日(9/19)に、会としてグランド・ゴルフを実施する。

- ◇ 9/13(月) 10:25ー 於仲勝町公民館対象者: 会長・T氏(地つき), 副会長・N氏(30年前から当地に居住), K氏(地つき), 会計書記・K氏(15年前から居住)

1. 町内会のこと

- ・この公民館の敷地と建物は名瀬市の所有で、当町内会が管理。敷地210坪、建坪50坪。
- ・旧上方村が名瀬市に合併される前は、仲勝町が公民館を所有。
- ・会計書記のK氏が当地に居住する前にこの公民館はできていたが、維持管理や補修が問題だ。当地の町内会費が高いのは、これら

にかかる費用を含むためだ。

- ・今年の総会は4月25日(日)に開催。会費は月額600円、加入世帯数は205戸。
- ・加入率は約90%、借家やマンション・アパートの居住者が主な未加入者だ。なお、当町内の向里(字名)に立地する県営住宅と国家公務員住宅は会の範囲から除外。
- ・町内会はあくまでも任意団体であり、この加入の任意性が会の活動と組織にとって大きい問題だ。
- ・いまは仲勝町と和光町を合わせて、一つの町内会を構成しているが、2000年に和光町という字名がついてから、和光町(約100世帯)の独立機運が生じた。
- ・当町は「合衆国」だから、町内の統合に力を傾注している。そのために、例えば、相撲大会や島唄大会を開催。今年から、小中学生の相撲大会に学校の吹奏楽団や先生も参加している。
- ・矢之脇町自治会のゴミ・ステーションをモデルにして、当会でも試作し、準備を進めている。色分けしてゴミの分別をするくらいで、いままで特段のゴミ処理対策はしてこなかったが、今年度の活動項目としたい。
- ・当町内は朝日校区だが、会の連合体は校区レベルにも市レベルにもある。市レベルでこの8月にまちづくり懇談会があった。
- ・当会も7項目の要望事項を出したが、その中心の一つが防災事項だ。
- ・例えば、崖崩れの危険地区でもそこへの防災工事の実施は地権者の承諾がないと、着工できない。ところが、全地権者の承諾をとるのは至難であり、この種の工事を進めている町内はどのようにして承諾をとったのかを学びたい。現に当町内にもそうした危険地区があるので。

2. 地域社会

- ・地つきは約40戸、あとの170-180戸は流入者。

- ・青年団や壮年団はない。55歳までが壮年、56-64歳がシニア会、65歳以上が老人クラブ。

日誌3(2005/6/13-6/15)

◇ 6/13(月)11:00- 於KT氏宅 対象者:KT氏(前出)

1. 名瀬市地域省エネビジョン策定活動など
 - ・鹿児島県名瀬市『出来ることから始めよう!!進んで省エネ楽しく省エネ』名瀬市地域省エネルギービジョン策定等事業報告書平成17年2月の発刊を教えてください。
 - ・KT氏も、策定委員会の15人の委員の1人として策定に従事した。事務局は環境対策課環境政策室(担当はTY氏かN氏)。
 - ・策定の狙いは、『名瀬市総合計画(2002~2011年度)』にうたわれている「ゼロエミッション社会の構築」や、奄美群島の世界自然遺産登録に向けての環境問題へのさらなる取り組み等にある。
 - ・策定委員たちと福岡市で実践されている地域通貨「ペパ」の事例等を調査に出かけた。
 - ・地域通貨を行政側であつかう窓口が企画課市民協働推進室。民間側の一つがNPO法人「グレース・エ・サモサ」。その代表がスローフード活動をしているYS氏で、同氏も策定委員。KT氏は同法人の副代表。同法人の狙いは、環境問題に意識・自覚のある人を増やすことにあり、町内会等を構成単位として取り込んではいない。
 - ・この4月から市が古紙の回収を開始したが、パッカー車で回収しているのは問題だ。そのため分別収集がだめになるからだ。
 - ・アルミカンと一升ビンは効率よく現金化されるので、回収がよく進んでいる。
 - ・本市では、この種の活動に福祉関係諸団体の参加が少ない。
 - ・だから、自分は温暖化防止推進活動等を啓

発する立場にもある。

2. 「アグリランド・あまみ」のこと

- ・これは、現に農業をしている人たちを取り込んでいるのを強みとする、スローフード活動をテーマとする団体で、2005年5月に発足。
- ・会長はNY氏、KT氏は理事の1人。メンバーは20人。
- ・この団体では、消費者と連携をはかりながら、環境問題を考え、環境共生を実践していきたい。NPO法人化を目指している。リュウキュウアユの生態観察、環境子供大会、カントリー・パン食い競争等の行事を行った。
- ・理念的にはYS氏の「サモサ」と類似しているが、別組織。

◇ 6/14 (火) 9:30- 於名瀬市役所環境対策課環境政策室 対象者：同課職員

- ・前日、KT氏から教示された『出来ることから始めよう!! 進んで省エネ 楽しく省エネ』を頂く。
- ・要は、この報告書をどう生かし、ここで提案されていることを地域にどう根づかせるかが大切だ。
- ・福岡市に地域通貨の実践例を視察に行った。同実践例ではさしあたり、参加者を意識の高い人に限定して、会員制にしているが、最終的には全世帯の1%参加を目指している。
- ・名瀬市でもこの7月から関係団体が地域通貨活動を始めることにしている。
- ・本市では、2004年度に約1,600トンのごみが出た(うち家庭系のごみが7割、事業系のそれが3割)。大島新聞6月13日付けによると、前年度に比べごみ処理に必要な電力使用料で430万円減を出している。

◇ 同日 10:00- 於同企画調整課 対象者：同課職員

・SH氏からの教示

- ①『市政だより』が第1巻(昭和29年8月分)から第3巻(平成1年1月分)までバックナンバー揃いで広報課に備えてあること。
- ②『名瀬市誌』の増補版もあること。

◇ 同日 11:00- 於(社会福祉法人)名瀬市社会福祉協議会 対象者：同課職員(複数)

- ・本協議会でボランティア養成講座として予算をつけているので、その予算を使って、2004年1月にボランティア諸団体による活動発表会を開いた。
- ・そのさいに、NPO法人「ユーアイ自立支援の会」理事長のTY氏(前出)にも活動を発表してもらった。その後の同会の活動内容は把握していない。
- ・矢之脇町は、地域性の残っているところだ。
- ・同町の民生委員はYH氏、民生委員アドバイザーがSK、NMの両氏で、かれらが地域のアクティブ派だ。
- ・本市には知的障害者の更生施設の「愛の浜園」があるが、就労の難しい人をリサイクル事業に継続雇用して、一挙三得を工夫するのがポイントだ。

◇ 同日 13:00- 於TY氏事務所 対象者：TY氏(前出)

- ・目下取り組んでいるのは、障害者や高齢者の外出を支援する福祉運送事業だ。
- ・外出困難者は現在では人口の5%というのが統計上のスタンダードだ。名瀬市でこれらの人を対象にして移送事業をしたい。福祉車両は3台持っているし、また、その運転は障害者でも資格があればできる。
- ・国土交通省、県、市、支援団体、利用者等を調整して、同事業の目鼻がやっとなつたところだ。

- ・この事業を軌道に乗せて、「ユーアイ自立支援の会」の運営もうまくいかせたい。
- ・その他に行っている事業は次の通り。市内で春・秋ウコン、ガジュツをあわせて約3反歩植え付けて、それらを混合、ブレンドした製品を作っている。また、空きビンの洗浄と紙パックからの再生紙作りは、代わる人がいないので、小規模ながら続けている。
- ・将来は福祉観光特区づくりを目指している。

◇ 6/15 (水) 9:00ー 於矢之脇町自治会長宅 対象者：SK会長(前出), SM氏(同自治会婦人部長)

1. SM氏のこと

- ・1938年(昭和13)大和村生まれ。地元の高校を出、数年島外に他出して、1963年(昭和38)に名瀬市に帰り、(株)S海運のS氏と結婚。現在同社長夫人。

2. 自治会活動

- ・「平成17年度自治会総会資料」の表紙は、平成16年7月、矢之脇公園で開かれた「やのわき祭り」の一コマで、約300人が参加。
- ・特に婦人部がこの祭りをはじめとする自治会行事のすべてにかかわっている。その意味で婦人部は、本自治会を構成する6つの部会中の中核だ。
- ・明るく住みよいまちづくりにみんなで楽しく取り組んでいる。市全体への目配りよりも、まずは自分たちの町内をよくしたいというのが私たちのスタンスだ。
- ・町内15カ所のごみステーションは木造であり、設置して3年たつので、だいぶガタが来ている。今年は腐食した木枠の取りかえや網の張りかえなどの修理を徹底したい。
- ・ごみの分別の仕方が変わった。これまでは燃えるごみと燃えないごみとの分別だったが、今年から分別項目が増えた。
- ・ごみ問題への自覚を促すためにも、自治会で市のクリーンセンターへの見学を予定して

いる。

- ・害虫駆除用のホウ酸団子づくりは、SM氏が平成14年度に婦人部長に就任してから人が集まるようになり、大々的に実施している。
 - ・SK氏は地域社会への奉仕の精神がいつばいの公平の人だ。
 - ・活動上の当面の問題
- ①総じて新しい居住者や若い住民が例えば清掃やホウ酸団子づくりなどの活動に参加しない。
 - ②活動に不参加の家庭の子供に問題児が目につく。問題児にすぐに問題児だとのラベリングを周囲の者がしない方がよいと思う。難しいことだが、当人に自分の行動の問題性を自覚させるようにいいかせる方がよい。昔は周囲の者がそうしていたと思う。
 - ③放し飼いにされた飼い犬による被害(人身への危害や脱糞など)が生じている。これも含めてペットの飼育問題がある。まずは放し犬の実態の写真撮影を始めた。
 - ④活動に不参加の人や自治会に非加入の人が本自治会の活動の現状をどうみているのかを把握したい。地域により密着した活動を進めるために。



校区自治会連合会主催体育祭の様子